

JRCC NEWS

2007 春季号



レスポンシブル・ケア



「花見日和」

毎年春になると、カメラを持って花見に行きます。これは伊豆で撮った写真ですが、メジロもお花見真っ最中でした。(旭化成ファーマ・高妻さん)



白梅の香りに包まれた会津鶴ヶ城、ようやく訪れた春に人の心も華やぎます。(昭和電工 東長原事業所・安江さん)

JRCC だより

☆会員動向 (会員数：103社 2007年4月現在)

入会

▶デグサ ジャパン株式会社 (2007年4月1日付)

☆行事予定

5月30日 JRCC総会

6月21日 安全シンポジウム

6月 会員交流勉強会

7月 会員交流会 (大阪)



古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH SOY INK

2007年4月25日発行





VOICE

理解してもらうために

東京工業大学名誉教授
JRCC 検証評議会議長
山本 明夫

いまや環境に大きな負担をかけるような企業は日本の社会に受け入れられない時代になった。「環境にやさしい」という言葉には、いささか猫なで声的な感じが付きまとっているが、その意味は伝わりやすい。したがって各社は、「環境にやさしい」企業であることを社会に訴えるため、環境報告書を発行し、あるいはCSR報告書の中に環境報告書を組み込んで、広報に努めている。

出来上がった報告書はいずれも立派なもので、グラフなども含めて、説明責任を果たそうという意欲が感じられる。コストもたっぷりかかっているようだ。資料の収集、報告書の作成に払った努力に対して敬意を表したい。

ただ、一般人には通じない「業界用語」それも英語の略号やカタカナ言葉の使用が社会との間の壁になっていると感じる。言葉の意味が分からなければ、善意の行動もその意図が伝わらない。まず、レスポンシブル・ケア活動という外来語自体がなかなか意味をとらえにくい言葉である。CSRも同じである。

ほぼ定着しつつある言葉を途中で変えるのは無理だろうから、ある程度はこのまま行くとして、英語の略号や、カタカナ言葉の多すぎるのは何とかならないだろうか。CSR報告書の表紙に英語しか使っていないものも見受けられる。社会に向かってその企業の意図を理解してもらおう、という姿勢はそこにはあまり見えない。

コンプライアンス、ステークホルダー、コミュニケーションツール、PDCAサイクル、ガバナンスなどの使用は、ある程度は仕方がないとしても、なるべく分かりやすく、誤解を招かないような言葉の選択が望ましい。

特にこのままでは具合が悪いのは、リスクとハザードという言葉の使い方である。英語の意味でも分かりにくいのに、カタカナでハザードといっても、その中身まで含めて、一般人には理解できないだろう。たとえば、ダイオキシンそのものは有毒であり、ハザードは大きい、ごみ焼却時に発生するダイオキシンを人間が摂取して発症するリスクは小さい、というような使い方をしているのだが、もう少し分かりやすい訳語を使えないだろうか。(人体に取り込む)リスクの方は日本語になっているのでそのまま使うとして、ハザードに対して、(その物自身の)有毒性、あるいは有害性という訳語では不都合だろうか。どなたかいい案を考えていただきたい。

とにかく、一般人に理解してもらうことが先決である。誰を対象として、何を、どこまで伝えようとしているのか。原点に立ち返って、分かりやすく、読みやすく、データも伝えられるようなCSR報告書を作るために、各社の一層のご努力をお願いしたい。

レスポンシブル・ケア報告書を 読む会を開催しました

レスポンシブル・ケア報告書を一般の方に読んでいただき、それをベースに対話を行い、レスポンシブル・ケア(以下RC)活動を理解していただき、また今後のRC報告書をよりよいものにするを目的として、「レスポンシブル・ケア報告書を読む会」を開催しました。

概要

- (1) 日時 2007年2月8日(木) 13時30分から15時30分
- (2) 参加者 経済広報センターの社会広聴会員 10名
- (3) 場所 日本化学工業協会 2階会議室
- (4) 応接者
 - ・JRCC 報告書WG主査 永守幸人 (旭化成 環境安全部 部長)
 - ・日本化学工業協会 常務理事 田村賢三
 - ・JRCC 部長 今田和生
- (5) ファシリテーター 関東学院大学助教授 織朱實さん
- (6) 進行・式次第

事前にRC報告書2006を配布し読んできてもらい質疑応答を中心に進めた。

13:30 開会、出席者・スケジュール紹介など

13:40 レスポンシブル・ケアの概要説明(DVD映写 12分)

13:55 自己紹介(参加した理由、どの程度読んだかなど)

質疑応答 レスポンシブル・ケア報告書に関する疑問点、感想、意見

15:30 終了

(7) 主な意見

- ・ RCは知らなかったがよい活動をしている。もっと広報すべき。
- ・ RCを含め業界用語・カタカナが多くボリュームも多い。一般向けの報告書でない。一般向けは取り組み中心に別に作ったらよい。
- ・ 冒頭の部分(会長挨拶、世界憲章制定、運営・システム等)が難しく、不必要。具体的な取り組み内容は読みやすい。
- ・ 会員の自己評価を見ると物流安全の緊急事態への対応など40%と十分できていない。自己評価は自己満足にすぎない。一方自己を正しく評価することは大切なことで、悪いことをそのまま伝えていることは評価できるとの意見もあった。
- ・ 化学業界は、REACHを日本でもやっっていこうと言えば評価は上がる。
- ・ 批判された方からも、閉会后「期待しています」と激励を受けた。

(8) 総括

出席者から率直な意見、建設的な批判や激励を頂戴し意義があった。



環境パフォーマンス 社会から信頼される



三洋化成工業株式会社

執行役員・生産技術本部長 吉野 隆さん

ニーズ指向のR&D

—京都駅の近くに化学工場があるとは思いませんでした。

吉野 その辺りのインパクトも多少は狙って(笑)創業以来、京都に本社、工場、研究所を置いています。当社は界面活性剤メーカーとしてスタートしましたが、現在はパフォーマンス・ケミカルズと称する、組成ではなく機能や性能を発現する化学品を中心に事業を展開しています。組成売りではなく性能売りということですね。たとえば紙おむつに使用される高吸水性樹脂等機能性の樹脂を手掛けています。「パフォーマンス・ケミカルズを通じて社会から信頼される企業に」という目標を掲げ、当社が提供する製品により社会に貢献していきたいと考えています。製品は生活・健康産業関連から機械・輸送機、プラスチック、繊維、電子・情報、環境・住宅設備関連まで多岐に亘っています。

—環境対応製品も豊富なようですが……。

吉野 省エネルギー・省資源に寄与するものとして燃費向上用潤滑油添加剤や燃料油添加剤、コピー機などの低温定着性トナーバインダー等、環境保護に関してはノンフロンや非ハ



住宅地に囲まれた京都本社と工場・研究所

ロゲン系、生分解性の製品が挙げられます。これらの環境パフォーマンス・ケミカルズが、最近数年間の新製品のうち60～70%を占めています。

—研究開発に注力しているということですね。

吉野 お客様の多様なニーズに迅速に対応するために「ニーズ指向のR&D」を推進しています。これはニーズ指向とシーズ指向を合成した当社独自の用語で、あるニーズに対応するために開発した技術を別の技術と融合させシーズとして、更に新しいニーズに対応していくというものです。そのため研究開発部門に全社員の約30%を配置し、売上高の約5%をR&D投資に充てています。過去5年以内に開発された新製品及び改良品が売上高に占める割合は、40%を超えました。

一人一人の環境意識が向上した

—レスポンシブル・ケア導入時に苦労したことはありますか。

吉野 当時、私は生産技術部長だったので日化協が開催した説明会に参加しました。話を聞いて、これは真剣に取り組まないと社会から評価されなくなるという危機感を抱きましたね。ただ社内の理解を得るのに多少時間を要したため、JRCC発足から1年後に加入することになりました。レスポンシブル・ケア導入に際しては、本社にRCグループという部署を事務局として設置し、従来から工場で実施していた小集団活動とリンクさせる形で進めました。環境管理に関しては、ISO14001をツールとして活動内容、体制等を整備しました。

—理解を得た後の浸透はスムーズだったと……？

吉野 幸いにも「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」という社がレスポンシブル・ケアの理念と合致していたため、これを基にレスポンシブル・ケアに関する経営方針を策定しました。経営陣への浸透は早かったですね。実際の活動については、RC推進本部会議の下にグリーン調達・省資源・RC活

・ケミカルズの充実により、 企業を目指します。

動PR・PRTR・温暖化対策といったワーキンググループを置き、本社の担当部署と各工場の改善部門を巻き込んで進めました。一つ問題があったとすれば、工場はISOで活動し、レスポンシブル・ケアは本社で実施するものという意識が当初見られたことですね。それも徐々に解消し、現在では海外の関連会社も含めたグループ全体の活動として定着しています。

—レスポンシブル・ケア活動を開始して、最も変化した点は何ですか。

吉野 社員一人一人の環境に対する意識が著しく向上しましたね。例えばフォークリフトを購入する際にも、軽油車ではなくよりCO₂排出の少ないプロパン車にしようという提案が現場から出てきます。また「レスポンシブル・ケア活動の諸項目を他人に説明できるか」というアンケートを実施していますが、「説明できる」という回答が年々増加しています。特に研究開発部門の伸びが顕著で、理解度の高さが環境パフォーマンス・ケミカルズの開発に繋がっていると感じています。

—課題、悩みなどはありますか。

吉野 炭酸ガスの排出量やエネルギー消費量等、原単位は下がるものの絶対量は増加傾向にある指標がいくつか見られます。特に高付加価値製品では原単位についても横這いが精一杯というものも出てきました。一生懸命活動しても結果として数値に反映されなければ、社内のモラルにも影響します。そのため原単位を生産量ベースから売上高ベースに変更するなど、成果の可視化に工夫をしてモチベーションの維持に努めています。

京都議定書の数値をクリアしたい

—社会とのコミュニケーションは？

吉野 環境報告書の発行やホームページへの掲載だけでは一



中学生の体験学習「受付業務」

方通行になってしまうので、相互理解を深めるために京都工場周辺の住民の方々に地域モニターをお願いして、意見交換会を開催しています。また小学校への出前授業や中学生の体験学習受け入れ等、子供達に当社や化学に対する関心を高めてもらうための活動にも取り組んでいます。変わったところでは、書籍の出版でしょうか。特に「京を歩けば」は作家や学者、芸術家など各界の著名人によるエッセイ集で、好評をいただき続編も発行しています。

—今後の目標を聞かせてください。

吉野 京都に本社を置いている会社ですから、何とか京都議定書の数値をクリアしたいですね。京都府の条例ではCO₂排出量は10%削減なので、これを達成するために京都工場では様々な対策を講じています。全社的には環境パフォーマンス・ケミカルズを更に充実して、三洋化成に対する認知度をアップし、社会から信頼されるユニークな企業として発展していきたいと考えています。

—JRCCに対する要望はありますか。

吉野 レスポンシブル・ケア検証をお願いしていますが、活動内容の評価だけに留まらず、JRCCの目指す方向性に沿ったアドバイスもいただきたいと思っています。トップランナーである他社の事例も可能な範囲で紹介いただければ、参考にしたいと考えています。



「京を歩けば」をはじめとする出版物

JRCC 平成18年

度下期会員交流会開催報告



藤島 企画運営委員長 清水 幹事会主査

2007年2月20日(火) 13:30~17:20

場所:如水会館 参加者:約70名

内容

- 挨拶 JRCC 企画運営委員会 藤島委員長 (三菱化学)
- 事例発表
- 分科会
- 「JRCC RC活動の取組み」 会員交流WG主査 塩崎保美 (事務局代理発表)
- 分科会報告

認識

- ・OHSASの導入の効果;システムの導入自体はあまり期待できない
- ・業務の分社化、協会社移管への対応;基本ルールの遵守の徹底
- ・ヒューマンエラーが多い;特効薬なし
- ・非常常作業での事故の多さが目立つ (行動災害)

④RCからCSRへ、登録15名

発表者 丸山氏 (日本化薬)

- ・推進状況;各社とも何らかの形でCSRに取り組み始めている
- ・CSR調達、海外の教育分野への寄付などが例示されたが、つまるところ本業に根ざした活動、身の丈にあった活動、バランスの取れた活動が必要との認識が示された
- ・CSRのISO化の動向;外部評価の基準になる可能性がある点要注意
- ・09年1月頃規格化の予定。ただし認証型ではなくガイドライン型
- ・RCへの影響? CSRの70から80%はRC

⑤RCの社員教育、登録11名

発表者 福本氏 (三洋化成工業)

- ・教育の立場、グループ企業も含めての体系作り
- ・営業部門など従来無関係と思われていた部門での認知度の向上が必要
- ・環境教育の重要性;現状では体系だったものはない
- ・コンプライアンス面での教育が必要 (水濁法、廃掃法などをRC監査で取り上げる)
- ・営業部門の意識付け;例えば返品の減少は廃棄物の減少に繋がることを手がかかり
- ・安全教育の見直し、例えば派遣社員対応
- ・飲酒事故など反社会的行為対応
- ・「全ての業務がRCそのもの」の認識

- ・ITツールの活用;教育ツール、法令データベースの構築と利用
- ・監査によるチェックの励行;クロス監査の効果 (部門間、事業所間、関連会社間)
- ・末端からの情報の重視;報連相の重要視
- ・法改正の迅速、正確なフォロー;担当者の設置、情報の整理と高頻度の発信
- ・過去の財産を活かす

②産業廃棄物、登録13名:発表者 佐々木氏 (旭化成)

ゼロエミッションへ向けての技術論

- ・発生量削減;廃棄の実情把握が必須
- ・分別の徹底;目標設定と明示が必要
- ・コストから眼を逸らさない;トップの方針が重要
- ・ガバナンス (適正処理);「地道な取組み」あるのみ
- ・委託業者の選定が大事;書類上の比較だけでなく現地審査が必要 (コスト増)
- ・全体管理システムの重要性;例えば電子マニフェスト、ベストプラクティス情報の利用

③労働安全、登録17名:発表者 藤田氏 (東燃化学)

- ・2007年問題と労働安全は必ずしもリンクしない
- ・キーワードは「世代交代」「高齢化」「省人化」など
- ・技能の伝承の重視;体験教育、現場現物教育の重要性の

④座長 井村裕氏 (JSR)

副座長 丸山峰雄氏 (日本化薬)

⑤座長 福本幸太郎氏 (三洋化成工業)

副座長 内田又左衛門氏 (日本農薬)

会員交流WG塩崎主査の講演「JRCC RC活動の取組み」では、

- ・前中期計画の達成状況
- ・新中期計画
- ・JRCCを取り巻く環境変化とその対応
- ・2006年度トピックス
- 等が取り上げられた。

JRCCを取り巻く環境変化では化学産業界に対する各種の要求の高まりを取り上げ、内外の化学物質の管理強化、コンプライアンス問題さらにRC活動や成果の説明責任の一層の強化が必要とした。また、06年度のトピックスとしてはRC賞の新設、RC報告書を読む会などが紹介された。

ついで各分科会の代表による討議内容の紹介があった。互いの分科会の討議内容を共有するためである。以下分科会報告を簡単に記す。

①コンプライアンス、登録13名

発表者 野間氏 (トクヤマ)

- ・教育の重要性を認識

分科会テーマ

- ①コンプライアンス (副題:法令違反ゼロのために)
- ②産業廃棄物 (副題:ゼロエミッションは可能か)
- ③労働安全 (副題:2007年問題)
- ④RCからCSRへ (副題:推進か否定的か)
- ⑤RCの社員教育 (副題:ステークホルダーとしての従業員)

事例発表:WGの委員が担当

- ①コンプライアンス:三井デュポンポリケミカル (株) 大島義昭氏
- ②花王におけるゼロエミッション:花王 (株) 大塚博司氏
- ③労働安全:(株) ADEKA 安田光雄氏
- ④RCからCSRへ:昭和電工 (株) 松本芳彦氏
- ⑤住友化学における安全教育:住友化学 (株) 田代宏氏

分科会:座長、副座長の他、事例発表者、10ないし15名が希望により参加した。この他会員交流WGのメンバーが1名ずつ参加した。座長、副座長を示す。

- ①座長 木村公明氏 (三菱化学)
副座長 野間義昭氏 (トクヤマ)
- ②座長 佐々木正和氏 (旭化成)
副座長 名越裕之氏 (東亜合成)
- ③座長 藤田哲男氏 (東燃化学)
副座長 国重悦巳氏 (ダイセル化学工業)

分科会座長・副座長、事例発表者の皆さん



事業所の概要

淀川工場は新大阪から北西約2キロに位置する典型的な都市型工場で、敷地面積約4万平方メートル、本社も同一構内にあり関連会社を含め約300名が勤務し機能材料や医薬農薬中間体等を製造している。田岡化学工業は現在、住友化学のグループ会社であるが1919年設立の歴史のある会社であり、当地で染料製造を開始したがその後フェノールやシアノアクリレート系接着剤、クレゾール等の製造を行ってきた。当初は神崎川の河川敷という恵まれた立地であったが、戦後次第に人家が増え現在は三方を住宅で囲まれる厳しい状況に置かれている(写真参照、残るはペイント工場)。



田岡化学工業(株)本社・淀川工場

レスポンスブル・ケア活動の取り組み

RCの活動はRC室環境保安の6名で担当している。一昨年に初めて環境・安全報告書を発行したが初めは随分苦労した由である。2006年版を拝見したが、イラストや写真を多用し、説明も簡素で随所に読みやすい工夫が凝らされていた。例えば報告書の最後の部分に用語解説(2ページ)が設けられていたが、これも工夫の一端であろう。日常活動として推進されている相互チェック活動にも注目したい。これは各職場の安全推進委員がパトロールし、工場内のRCに関する不具合チェックを行うものである。



安全宣言ポスター

住友化学がグループ会社の環境安全担当者を年2回召集情報交換会を実施しているが、問題解決にあたり非常に有効とのことである。特に法改正に関する最新情報は貴重である。また、親会社による査察が定着しているが、そこでは親会社と同レベルのRC活動を要求されるという。

JRCCの活動については会員交流会などに参加してきたが今後も可能な限り参加する。

地域住民とのコミュニケーション

工場敷地が住宅と隣接しており住民との信頼関係の構築、維持が最大の関心事である。毎朝の工場周辺の清掃、地域子ども会の廃品回収への協力などの日常活動に加え夏休み子ども工作教室等を毎年実施して喜ばれている。

工場の公開に関しては地区の自治会主催の「西三国公害委員会」の活動に協賛し工場パトロールを受け入れているが、この活動は40年近く続いているという。近隣住民からの苦情としては騒音、振動、排水などがあつたが逐一解決に努めてきた。多種の溶剤を使うため臭気が問題になることがある。脱臭のためのガス焼却設備の新設により相当解決したが、根絶とは言えず発生都度誠実に対応している。

また、淀川区の多くの企業が加入している「淀川区都市環境研究会」に加入し様々な活動を行っているが、その一環として田岡化学のメンバーがRCに関する講演を行った。

訪問者後記(編集部訪問取材)

淀川工場は歴史のある事業所でフェノールの製造に用いられた昔のレンガ炉が構内に現存しているが、残念ながら取壊されるそうである。老舗の企業ではこのような歴史的な設備が同じ運命を辿るのではないだろうか。科学史の観点から何とも惜しい気がする。



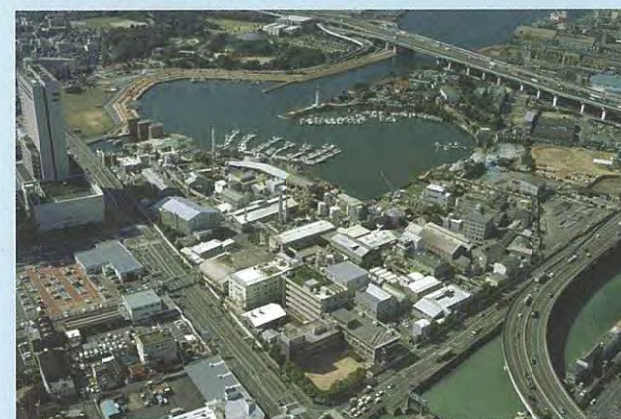
地元子供会との工作教室

事業所の概要

堺化学工業堺事業所は当社発祥の地であり、1918年6月に亜鉛華(酸化亜鉛)を製造する「堺精錬所」としてスタートしました。

以来90年近くにわたる歴史の中で、亜鉛華工場は福島県いわき市に移転し、現在、当事業所は塗料や電子部品に使用されるバリウム製品、液晶ガラスや自動車エアバッグ用インフレーターなどに使用されるストロンチウム製品のほか、樹脂添加剤の製造拠点となっています。樹脂添加剤はプラスチックの加工・成型を容易にし、耐性を高めるものであり、現在は非鉛系やノンハロゲン系など環境配慮型のもが主流となっています。

また、同敷地内には当社のコーポレート・ラボである中央研究所も活動しています。



堺事業所全景

レスポンスブル・ケア活動の取り組み

1. 環境への取り組み

当事業所は私鉄沿線に所在し、大型ホテルや娯楽施設などの商業施設と隣接する都市型工場であることから、環境対策を特に重要視しています。

2005年夏に重油焚きボイラからLNGボイラに転換したことにより、SOxとばいじんの排出量がゼロに、NOxやCO₂の排出量も削減されるなど、大気汚染負荷の大幅な低減を実現しました。

また、事業所内の工程排水は全て構内でCODおよびBOD処理しており、それらを含む全ての水を総合排水処理したうえで大阪湾に排出しています。

2. 安全衛生・防災活動

安全衛生パトロールによる職場の点検、KY(危険予知)やヒヤリ・ハット活動による徹底した危険の芽の摘み取りなど、トップから職場の隅々に到るまで、全員参加で労働災害の撲滅に取り組んでいます。また、メンタルヘルスケアにも産業医を含めて積極的に取り組み、心身ともに健康的で明るい職場作りを行っています。



安全大会の様相

地域社会とのつながり

日常的には、事業所の全員が参加する工場周辺清掃運動「クリーンアップ作戦」を毎月展開しているほか、地域と共同して南海堺駅周辺の清掃活動にも参加しています。また、体育館やクラブハウスなどの福利厚生施設を地域の皆様に開放しています。

さらに、JRCC会員として、レスポンスブル・ケア堺・泉北地区地域対話にも積極的に取り組み、地域自治会や企業関係者、行政との交流も深めています。

今後も地域に信頼される企業として、コミュニケーションを深めていく所存です。



RC堺・泉北地区地域対話 当社発表の様相

第6回 レスポンシブル・ケア 千葉地区地域対話を開催

第6回千葉地区地域対話が、平成19年2月2日にサンプラザ市原にて開催されました。

当地区には日本レスポンシブル・ケア協議会（JRCC）加盟各社の20事業所があり、地域対話は事業所の近隣にお住まいの住民の方々に対して、事前にアンケートを行うことから始まりました。アンケートを集計した結果、今地域住民が事業所に対しもっとも関心を持っていることは“事業所の保安防災”であることが分かり、企業より“保安防災”を統一テーマとした事例発表を行うこととしました。

対話集会へは、自治会関係者をはじめとして、行政・教育関係者、NPO、企業あわせて約150名が参加し、企業の事例発表とパネル討論を中心として、活発な意見交換が行われました。

●チッソ石油化学（株）の五井事業所をバスで見学した後、発表会場に移動して、事業所からの事例発表が行われました。「コンビナートの保安・防災活動」（株）ADEKA千葉工場、広栄化学工業（株）千葉工場、日本曹達（株）千葉工場、三井・デュポンポリケミカル（株）の共同、「保安・防災の取組（地震対策）」（日産化学工業（株）袖ヶ浦工場）、「高圧ガス施設を含めた工場保安・防災活動」（電気化学工業（株））の3件です。“保安防災”という統一テーマでの事例発表であるために、各事業所の発表内容が重ならないように、日産化学工業（株）の発表では地震対策に、電気化学工業（株）の発表では高圧ガス設備に焦点を当てた内容とし、また4社共同で事業所単位ではなくコンビナート全体にわたる保安防災体制について発表が行われました。各発表では、イラストや写真を多く使い、できるだけ専門用語を排して日常的な言葉を使うように心がけており、住民の方にも分かりやすいように工夫がなされていました。

●パネル討論は、討論が円滑に行われるようにリスクコミュニケーションに詳しい女性司会者を起用し、パネ

リストは地域住民4名、企業6名、学識者1名という構成で行われました。

住民から、まず地震時の企業の対応についての質問がありました。企業より、現在の設備の設計・建設は震度7の地震に耐えるという新耐震基準で行われており、それ以前の旧基準で建設された設備については、緊急度に応じて優先順位をつけて計画的に補強していること、万が一設備が破損して災害が発生した場合には、行政を通じて住地域民に遅滞なく通知する方針を徹底しているとの説明が行われました。

設備の老朽化が事故発生の一因になっているのではないかと指摘に対しては、定期点検は勿論、最近では設備の寿命を予測して故障する前に保守をするシステムも取り入れていること、また本社等の第三者による監査や、自・他社の不具合発生事例を横展開して予防に力を入れているとの回答がなされました。

そのほか、大気汚染、緑地確保、省エネ、社員教育等々についての質問がなされ、かなり厳しい指摘もありましたが企業側は誠実に回答を行い、質問者の納得を得るように努めていました。

パネル討論における活発な討議を通じ、地域住民と企業との距離が近づいて、今後とも互いに理解を深めていける対話集会であったと思います。



パネル討論の様子

第3回 レスポンシブル・ケア愛知地区地域対話 花王（株）ホームページで紹介

第3回愛知地区地域対話が、平成19年2月8日に豊橋グランドホテルにて開催されました。本対話は、三菱レイヨン（株）、東レ（株）、花王（株）、ランクセス（株）の4社が幹事会社となり、愛知地区のJRCC加盟21事業所の主催で行われたものです。その様子が、花王（株）のホームページに掲載されていますので、ここで紹介します。

最近の活動報告

豊橋工場が、「第3回日本レスポンシブル・ケア協議会 愛知地区地域対話会」に参加

2月8日（木）、花王の豊橋工場（愛知県豊橋市）も参加して、「日本レスポンシブル・ケア協議会」愛知地区の地域対話会が開かれ、近隣住民の方々と環境・安全・防災に対する意見交換を行いました。

当日は、近隣住民の方22名と、「日本レスポンシブル・ケア協議会」加盟企業のメンバー52名が参加しました。

レスポンシブル・ケア（RC）活動とは、化学物質を取り扱う企業が、「環境・安全・防災」について、対話を通じて社会からの信頼を深めていこうという、“事業者による責任ある自主的活動”をいいます。これに取り組む企業の集まりが「日本レスポンシブル・ケア協議会」で、各地で地域住民との対話会を開き、その地域企業の事業活動を、近隣住民の方々にご理解いただく活動を行なっています。

花王では、近隣住民の方々のご理解があってはじめて、生産活動をまじめとした事業活動が成り立つものと考えており、これまで花王の事業場のある地域では、環境保全活動や保安防災活動などの状況について、定期的に近隣住民の方々にお伝えする取り組みを続けています。

今回、「日本レスポンシブル・ケア協議会」愛知地区地域対話会に参加した豊橋工場は、シャンプーやリンス・トリートメント、入浴剤などの商品を主に生産する工場です。

当日は、豊橋工場における省エネ活動や廃棄物削減活動、化学物質管理活動などといった環境保全活動について報告したほか、防災訓練や工場見学の実施状況、岩屋緑地（豊橋市大岩町）の緑化保全への参加、工場周辺の道路清掃などの社会貢献活動について、具体的に写真や図表を交えながらご説明させていただきました。これに対し、近隣住民の方々からは、花王のリサイクル活動などについて貴重なご意見・ご質問をいただきました。

これからも、花王は地域社会の一員として、社会的責任を果たすとともに、よりよい共生をめざして、今後とも地域とのコミュニケーションを推進してまいります。



地域対話の様子



質問に立つ近隣住民の方

第4回 レスポンシブル・ケア 兵庫地区地域対話を開催

第4回兵庫地区地域対話が2007年2月10日、高砂福祉保健センターにて開催されました。東播磨では初めての開催となります。

参加者は約150名と多くの参加がありました。また一般の方々参加しやすいよう土曜日開催としたおかげもあってか、自治会関係29名、NPO・団体・学校関係者22名の参加と多様性に富むものになりました。

当日の資料である予稿集に約30ページを使って兵庫地区14社の事業所概要とRC活動についての説明があり、地区全体が把握しやすい内容となっていました。

基調講演に続き、兵庫地区に加盟している20事業所の中から田岡化学工業(株)、住友精化(株)、(株)カネカによる事例発表が行われました。その後、事前アンケートに基づく質疑応答、意見交換会と続きました。

●基調講演

「リスク・コミュニケーションの推進を目指して」
賢明女子学院短期大学 多々良尊子教授



リスク・コミュニケーションの重要性について理解を深めるために、まずリスクとは何かについての説明から入り、自動車や医薬品など便益性が大きいものはリスクを小さく感じ、工場やゴミ処理施設など自分にとって便益性が小さいものはリスクを大きく感じる

など、身近な例を交えながら住民が理解しやすいよう平易な言葉で講演が行われました。

●企業の活動事例発表

1. 「環境保全の取り組み」

田岡化学工業(株)播磨工場

レスポンシブル・ケア室部長代理 坂上肇氏

・播磨工場について、水質、大気、省エネルギー、廃棄



アンケート結果発表と質疑応答

物削減、臭気、騒音への取り組み、化学物質管理と環境保全全般を網羅した説明が行われました。

2. 「住友精化株式会社別府工場のRC活動について」

住友精化(株)別府工場 技術部長 早川俊一氏

・別府工場について、地球温暖化防止、循環型社会への対応、大気汚染防止、水質汚濁負荷の低減、化学物質の排出削減、保安防災等の説明が行われました。

3. 「保安防災・環境保全の取り組み」

(株)カネカ高砂工業所

環境安全衛生グループリーダー 山口一道氏

・高砂工業所に関して、はじめに保安防災について過去のトラブル事例とその再発防止策も含めて、設備面・運転面の安全への取り組み等が説明されました。環境保全の取り組みでは、排水、大気、ゼロエミッション、ボイラーから発生する煙の対策、ボイラー燃料転換、臭気対策、PCB廃棄物の管理状況についての説明がありました。



意見交換会の様子

第5回 レスポンシブル・ケア 鹿島地区地域対話を開催

第5回鹿島地区地域対話は、同地区の日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)加盟の19事業所が主催者となって、平成19年2月23日に鹿島セントラルホテルにて開催されました。対話集会へは、自治会関係者や婦人会、行政、学校の先生、NPO、企業あわせて約130名が参加し、行政からの環境の現状報告、企業の事例発表、総合質疑を中心として、活発な意見交換が行われました。

●対話集会は、鹿島地区では初めて実施するという工場見学から始まりました。十分に時間をかけてじっくり見学していただくという主旨から、参加者は、旭硝子(株)または三菱化学(株)のいずれか1社を選び、バスに分乗してそれぞれの工場見学を行いました。旭硝子では全長700mのフロートガラス窯に沿って歩いて見学し観察することができたことが、非常に印象に残ったと好評であり、見学帰りのバスの中では排水処理と職場環境について、早くも質問がなされ、担当者が丁寧に答えていました。また三菱化学においては、雨天のため一部バスから降りて見学をする予定が中止となりましたが、高所放水車からの放水実演、説明会場でのガラス窓越しの集中制御室見学など、住民に分かりやすくする工夫を行っていました。

●地域対話では、毎回対話実施後に参加者の意見をアンケートとして集めており、その経時的な変化が(株)

ADEKAより発表されました。その結果によると、当初よりも参加者数、特に地域住民の参加者が大幅に増え、RC活動の認知度も向上して対話が地域に根付いていることが紹介されました。

●茨城県から、大気中の有害物質や水質の変化について鹿島地区と他地区を比較した結果が示され、工業地帯であるにもかかわらず鹿島地区は他地区と同等レベルで十分に良好な環境が保たれていることが紹介されました。

●会員企業のRC活動事例発表では、(株)カネカ鹿島工場より「プラスチックのリサイクルへの取組」、花王(株)鹿島工場より「工場の社会貢献・環境保全活動についての報告と消防・防災活動について」、日本化薬(株)鹿島工場より「工場における環境・安全衛生活動について」の発表が行われました。プラスチックのリサイクルについては、消費者の関心も高いことから興味あるテーマであったと思われます。

質問や意見も多く出されましたが、小学校の先生が本日の企業発表のみでなく、出前授業、工場見学など日頃の企業活動にもふれられて謝辞を述べられ、今後の教育に生かしたいとの発言があり、企業のRC活動は地道ながら着実に社会に浸透していると実感することができました。



三菱化学(株)鹿島事業所見学参加者



旭硝子(株)鹿島工場見学参加者

APRO (アジア太平洋レスポンシブル APRCC (アジア太平洋レスポンシブル

①APRO会議報告

1. 日 時：2007年3月16日
2. 場 所：クアラルンプール（マレーシア）
3. 出席者：Hapiz Abdullah APRCC2007議長
（マレーシア化学工業協会のRC委員長、
デュボン・マレーシア）、Neville Hunter
APRO事務局長の他、ニュージーランド、シン
ガポール、インドネシア、タイ、インド、
マレーシア、日本から計13名が出席しまし
た。JRCC事務局から、福間と八重樫（文
責）が参加しております。

※APRO: Asia-Pacific Responsible Care Organization
レスポンシブル・ケアを実施するアジア太平
洋地域12カ国の化学工業協会のグループ
（加盟国：日本・韓国・香港・台湾・タイ・
マレーシア・フィリピン・シンガポール・イ
ンドネシア・インド・オーストラリア・
ニュージーランド）

4. 会議内容

本年11月12～13日に開催される、APRCC2007の議
題・発表者・発表内容・会場等の打ち合わせを行いまし
た。APRCC2007のメインテーマは、“Responsible Care
- A New Focus”で、世界憲章、プロダクト・スチュワー
ドシップ、グローバルな化学物質管理の動向、物流安全
などに関する発表と討議が行われる予定です。以下をご
覧いただき、ご関心がございましたら、JRCC事務局（担
当：八重樫）までお問い合わせください。

②APRCC2007開催のご案内

日 時：2007年11月12～13日（月～火）
場 所：クラウンプラザムティアラ クアラルンプール（予定）



議 題（3月16日現在予定）

- 11/12（月）
- 9：00～9：30 開会の辞・歓迎挨拶
 - 9：30～10：00 「レスポンシブル・ケアの最新事情
（世界憲章の実施）」
（ICCA RCLG議長またはRCLG事務局）
※RCLG：レスポンシブル・ケアを実
施する世界52カ国の化学工業協会の
グループ
 - 10：30～11：15 各国協会のレスポンシブル・ケア活動
「中小企業のレスポンシブル・ケア導
入」（ニュージーランド）
「レスポンシブル・ケア検証とISO認
証」（日本）
「レスポンシブル・ケアを実施する
上で直面した課題と挑戦」（インド
ネシア）
 - 11：15～12：30 パネルディスカッション
 - 13：30～14：00 「プロダクト・スチュワードシップへ
の期待」（マレーシア労働安全衛生局）
 - 14：00～14：30 プロダクト・スチュワードシップの
取り組み
「協会の取り組み」（オーストラリア）
「企業の取り組み」（BASF）
 - 15：00～15：30 プロダクト・スチュワードシップ実
施のための行動
 - 15：30～16：00 「グローバルなプロダクト・スチュ
ワードシップの紹介」
（Greg Bond氏、ダウ上海）
 - 16：00～16：45 パネルディスカッション
- 11/13（火）ACIC（アセアン化学工業会議）参加者も出席
- 9：00～9：30 「レスポンシブル・ケアと世界の化学
物質管理」（Rainer Koch氏、ICCA）
 - 9：30～10：00 「化学物質管理とリスクコミュニ
ケーションに関する日本の取り組み」
（関東学院大学法学部織朱実助教授）
 - 10：30～11：00 「日本におけるGHSの実施」（日本大
学大学院理工学研究科城内博教授）
 - 11：00～11：30 パネルディスカッション
 - 12：30～13：00 「流通におけるレスポンシブル・ケア」
（ペトロナスまたはマレーシア政府
商用車認可局）

・ケア機構）会議報告および ・ケア会議）2007開催のご案内

- 13：00～13：30 「中国における交通安全と品質評価
システム」（BASF）
- 13：30～14：00 「物流安全」（BDP International）
- 14：00～14：30 「輸送時の緊急対応」（Nattawud
Janteb氏、Malaysian Oxygen, MOX）



なお、15日（木）には、引き続き、ICCA RCLGによる
レスポンシブル・ケア検証セミナーが開催されます。こ
れはICCAによるキャパシティ・ビルディング（途上国の
能力構築・向上）活動として行われるもので、マレーシ
アを中心とする企業および協会のレスポンシブル・ケア
担当者や検証員を対象としています。マレーシアまたは
近隣国へ進出されている企業におかれましては、ご関
心がございましたら、JRCC事務局（担当：八重樫）までお
問い合わせください。

- ・日時：2007年11月15日（木）
- ・場所（予定）：
クラウンプラザムティアラ クアラルンプール
- ・内容（予定）：
＜午前＞既存の検証システムの紹介
RC14001の紹介…ACC（米国化学工業協会）
JRCCの検証制度の紹介…福間
中小企業向け検証システムの紹介…ニュー
ジーランド

＜午後＞ケース・スタディ

マレーシアのレスポンシブル・ケア事情 JRCC 福間康之臣

3月15日～16日マレーシア、クアラルンプールで開催
された APRO 会議に参加し、偶然同日開催された RC 賞授
与式に参列したり、JETRO の現地事務所を訪問したりし
て、実感したマレーシアのレスポンシブル・ケア事情につ
いて報告いたします。

今まで、ASEAN 諸国の RC 協会及び企業を訪問し、わか
ったことがいくつかあります。一つは、その国の RC のレ
ベルはその国の GDP レベルとほぼ一致しているというこ
とです。その意味で、マレーシアの RC 活動は、ASEAN の中
では、シンガポールについて高いと予想されます。このこ
とは、2002 年から既に RC 表彰制度を開始していること、
検証も行っているらしいことより伺えます。JRCC では、2006
年度から表彰制度がスタートしたところです。この表彰制
度も、石油化学、油脂化学、農業化学、一般化学とセク
ター毎に賞を設けたり、中小企業を対象としたもの、個人を
対象としたものを設ける等の工夫をしています。また、授
与式に環境資源省大臣を招き、RC についてすばらしいス
ピーチを披露している等なかなか力が入っています。

二つ目は、ASEAN 諸国では、RC の普及に政府の力を借
りているところが多いことです。マレーシアでも、上述
のように環境資源省大臣をうまく利用しています。また、
RC 賞選考委員会に政府関係者が入っています。

このように表面的には、なかなか派手なパフォーマンス
なのですが、具体的活動も活気あるものかという少し疑
問があります。

マレーシアの RC 推進組織は日本に似ていて、日本の経団
連に相当する FMM (Federation of Malaysian Manufacturers)
の下に、日本化学工業協会に相当する CICM (Chemical In
dustries Council of Malaysia) があり、CICM の中に、JRCC に
相当する RC 委員会があります。実質 RC を推進する組織は、
RC 委員会なのですが、議長と委員が兼任で任命されてい
るだけで事務局がありません。FMM はマレーシアで一番し
っかりした組織で、そこに兼務で一人 RC 担当の事務局があ
ります。その下の CICM には RC を担当する事務局がありま
せん。RC コードも 6 つ策定されていますが、その内容は非
常に簡単で、数行の要求事項が記載されているだけです。こ
れをベースに検証ができるかどうかと少し疑問に思います。

これは、三つ目の共通点になりますが、ASEAN 諸国にお
いて、実質的に RC 活動をリードしているのは欧米系外資
企業です。過去の RC 賞スポンサー企業（経費拠出企業）は
次のようでした。2002 年デュボン、2003 年エクソンモー
ビル、2004 年ダウ・ケミカル、2005 年 PETRONAS、2006
年 CCM Chemicals。欧米系外資企業が中心になっています。

マレーシアを含め ASEAN 諸国を廻り、RC について感じ
たことをまとめると、その国の RC 活動の活気を左右する
のは、その国の RC 協会に、専従の事務局員でも議長でも
よいのですが、熱意ある、且つ権限を持った人がいるか
いなく、即ち、リーダーの資質次第という感を深めました。
マレーシアでは、RC 委員会議長の Dr. A Hapiz 氏が熱心
に APRCC 会議に向け準備されている姿が印象的でした。

RC 検証を受審して

日本油脂株式会社 川崎事業所長 上田 直樹



日本油脂グループは「バイオから宇宙まで」のキャッチフレーズのもと、油脂製品、化成製品、火薬加工品などの幅広い事業展開を行ってきており、今年で、創業70周年を迎えようとしております。当社は、事業活動の継続のためには「地球環境の保全に努めることが重要課題」とし、その一つであるRC活動については、5つの安全(労働、設備、製品、物流、環境)と社会との対話について、各々の安全活動を実践しています。

川崎事業所は、2003年12月に発足した新しい事業所です。元々、化学品の製造をしていた千鳥工場と、新たに隣接地に、食品事業の大師工場、医薬関連事業のDDS工場、さらに防錆事業のプラントを建設し、加えて各事業の技術開発部門、スタッフ部門に分析・物流関係会社で構成しており総勢550名の従業員を擁しています。

今回、RC活動の一環として本社設備・環境安全統括室の指示により、2006年12月にJRCCによるRC検証を初めて受審しました。対象分野は「労働安全衛生コード」で、本社設備・環境安全統括室と全国の2事業所と2工場ほぼ同時期に審査が行われました。当事業所は各種事業が混在していますが、安全管理組織は、事業所直轄の環境安全管理室が事務局となり、全体の安全活動をリードする形になっています。各事業所・各工場が個別に培ってきた独特の組織風土を持っているため、その共通項を導き出すのに色々苦労しています。そのため、外部からの検証指摘により、当事業所の改善課題を浮き彫りにし、今後の活動の更なるレベルアップを図ることを狙いに、当事業所の中の化学品事業の千鳥工場(竣工1961年、従業員120名)と食品事業の大師工場(竣工

2004年、従業員180名)の2工場を受審対象といたしました。

受審結果については、事業所全体として、安全活動の推進方法、組織運営等でまだまだ改善すべき点を指摘されました。全員参加型を意識するあまり、「取り組みやすい内容に流れてはいませんか」、方針展開の実施過程で、「結果パフォーマンスだけでなくそのプロセスを確認していますか」といった指摘が多く出され、大いに反省したところでした。一方、日々の安全活動状況では、過去の経験を水平展開する独自の工夫や、安全巡視の指摘事項に対するフォロー体制についてご評価いただくとともに、現場巡視で自分たちが少なからず自信のあった点、PRしなかった項目についての説明では、お褒めの言葉をいただき、意を強くしたところもありました。いずれにいたしましても、事故が再発する箇所は本質的原因追求の仕方に甘さがあること、いかに数字的パフォーマンスを出した箇所でも、システムがきちっと構築され、その活動過程が目に見える形になっていなければ、それはただの「結果オーライ」にすぎず、常に再発の危険をはらんだままであることを再認識いたしました。

今回のRC検証の受審中、方針策定の段階の指摘があったことを思い出し、いかにすれば従業員の共感を呼び、どんな言葉で伝え、どんな準備をするかを考え「07年度安全方針」を策定します。

最後に、JRCC検証員の皆様の心のこもった指摘、助言に本当に感謝いたします。安全で健康な事業所を造るべく、是非生かしていく所存です。「ご安全に」

● 検証評議会 ●

検証評議会は、RC検証制度自体の透明性、公平性を担保する目的で設置され、年2回開催されます。その役割は、検証センターの業務監督、検証員の任命、再登録等です。議長は、東京工業大学名誉教授の山本明夫先生で、各分野の有識者6名から構成されています。

写真は、2007年4月3日に開催された、第10回検証評議会の様子です。今回は、検証員1名の再登録が承認されました。時には、検証以外の化学及び産業界のトピックスに話題が飛ぶことがあります。今回は、電力業界の不祥事、トヨタの改善活動等が話題に上りました。



検証員紹介

質問項目 ①出身会社 ②職歴 ③検証における強み・心がけていることなど
④趣味 ⑤その他



田中 康夫 センター長

- ①大日本インキ化学工業株式会社
- ②数年は研究に従事したこともありましたが、主にプラント建設、生産、環境安全を経験し、退職前には環境安全担当役員を務めました。2002年に同社を退社し、直ぐに、RC検証センター長を拝命し、現在に至っています。1994～2001年には日化協の環境(立地環境部会時代の時代を含む)部会長を、2001～2004年には環境省の「化学物質と環境」円卓会議の委員を務めました。
- ③検証では、29社訪問しました。RCについては、会社にいたときのことに加え、いろいろなことを学ぶことができました。最近では、現場の巡視を依頼されることが多くなっています。この場合には、労働安全衛生、保安防災、環境保全について、今までの経験が生かしていると思っています。会社の方々に役立つ検証を心がけています。
- ④趣味の一つは旅行です。毎年1回は海外に行きたいと思っています。2005年2月、北欧にオーロラを見に行きました。デジカメで三脚を据えて、撮ったのですが、見事に写っていて、デジカメのすごさに感心しました。家庭菜園では、2坪ほどのビニールハウスでサラダ菜を育てており、この冬は、生野菜はすべて自家製でした。
- ⑤大阪府出身です。就職してまもなく、関東に来ましたが、未だに大阪弁が抜けていません。現在は千葉市に住んでいます。



藤井 俊治 検証員

- ①三菱化学株式会社
- ②石油化学の企画や工場でのプラント建設、技術改善、製造管理などを約30年経験した後、本社の環境安全を担当。2000年に退職し、㈱タイヤリサーチマーテックにおいて、化学物質管理や石油化学に関する調査・コンサルティングを担当。2005年からJRCCのRC検証員。
- ③工場での現場経験、本社でのRC推進活動で工場や研究所のRC監査経験がRC検証に役立っています。最近ではRC理念の経営への反映やRC活動のコミュニケーションに関心を持っています。
- ④山歩きが趣味で、毎月どこかに出かけています。年に1回は海外でトレッキングを楽しんでいます。また、サッカーも好きで、スーパーエイジ(60歳以上)のチームで月に1回程度試合をしています。
- ⑤東京都生まれ。入社後三重県四日市に15年、茨城県鹿島に2年勤務。現在は川崎市に在住。



松尾 俊次 検証員

- ①旭化成株式会社
- ②1976年～1997年まで、工場の研究課や本社研究所、事業部の研究所で、ほぼ一貫して研究開発に従事。1997年～2002年JCIA(技術部)へ出向、主に国プロ(次世代科学プロセス技術開発)の運営と、化学品安全の仕事に少し担当。2002年に退社後はJRCCで検証業務を担当、現在にいたっています。
- ③検証ではこれまで13社訪問しました。会社の方々に役立つ検証を心がけています。
- ④現在の趣味はゴルフ、園芸、囲碁、旅行、絵画鑑賞といったところです。下手の横好きでいろいろ手を出してきましたが、何一つものにはなっていません。それでもこりずにやっています。
- ⑤出身は九州の宮崎県です。高校、大学は東京。旭化成に入社後は、倉敷市、富士市、境町(茨城県)、延岡市での生活を経験、現在千葉県野田市に住んでいます。

第1回RC賞決まる

2005年末中期計画の総括で下記の検討が行われました。

- ・外部でのレスポンシブル・ケアの認知度が低い
- ・会員内でもRC活動を主として行っている環境・安全部以外のセクションでのRC活動の関心が低い傾向がある
- ・ベストプラクティスの共有

これらの課題と

- ・既にRCを推進している方の更なる活性化と意欲向上

以上の目的でレスポンシブル・ケア賞の創設が提案されました。

RC賞の制度設計は、会員交流WGと企画運営委員会幹事会との間でキャッチボールをしながら検討が行われました。

2006年1月25日	RC賞提案の背景の理解
3月3日	RC賞のイメージ作りのフリートーク
5月16日	日化協関連の他表彰制度（安全賞、技術賞）との比較検討
8月2日	RC賞要領、推薦要領等検討
9月8日	候補事例の検討、選考時の公平性・透明性の確保の検討
10月31日	企画運営委員会にてRC賞創設の承認
11月6日	募集開始
12月15日	応募締め切り（6件の応募有）
12月22日	評価基準の検討、選考

2007年1月19日	幹事会にて選考
3月28日	企画運営委員会にて承認
7月	会員交流会（大阪）にて、表彰式及び受賞者の発表

受賞した方々

会員名	受賞者	表彰テーマ
宇部興産（株）	鶴谷 藤川修三 阿部正博	宇部地区でのRCコミュニケーションの活性化
住友化学（株）	奈良恒雄	対外的なRC活動の推進
J S R（株）	波田尚志	四日市地区でのRC活動
昭和電工（株）	鈴木俊郎 松井信行 薬師寺一行	大分地区におけるRC地域対話を中心とした、地域とのコミュニケーションの深化
コニカミノルタホールディングス（株）	北陽子	市民対話とリスクコミュニケーションの実践および普及活動

Index

Voice	東京工業大学名誉教授 JRCC検証評議会議長 山本 明夫	2
レスポンシブル・ケア報告書を読む会を開催しました		3
from Members【第41回】	三洋化成工業（株） 執行役員・生産技術本部長 吉野 隆さん	4
JRCC平成18年度下期会員交流会開催報告		6
RCの現場を訪ねて	田岡化学工業（株） 淀川工場 堺化学工業（株） 堺事業所	8
地域対話		10
APRO会議報告およびAPRCC2007開催のご案内		14
RC検証を受審して	日本油脂（株） 川崎事業所長 上田 直樹	16
検証評議会／検証員紹介		17
第1回RC賞決まる		18
JRCCだより		20

編集後記

●●本ニュースが発行される頃には、桜前線が津軽海峡を渡っているものと思われます。今年は暖冬が喧伝されましたが、野鳥の世界でも異変が見られました。普段は山地に見られるウソという鳥が人里に出没しました。スズメより二回りほど大きく黒い頭、オスのノド元は鮮やかな紅色で口笛に似た鳴き声。大宰府天満宮や湯島天神の「ウソの神事」にちなんだ民芸風木彫りのモデルとなった優雅な鳥。ところがその姿にはまるっきり似合わぬ荒業の主。桜の蕾をバリバリ音を立てて食い食うのです。私の住む川崎市の団地にも年末から群で居つき、冬芽の段階から食い散らしていました。これでは今年の桜は駄目かなと一瞬思いましたが、例年どおり綺麗に咲き始めました。自然の営みの大きさを考えさせられる一事でした。

●●本号は全頁カラー化第二弾です。できるだけ大きな写真を多数掲載するという矛盾した方針を立て努力しておりますが印象はいかがでしょう。また今回、新しく検証員紹介のコーナーを設けました。顔の見える検証、親しまれる検証に少しでも役立てばと願っております。